

DSP処理槽点検報告より、解決を要する課題！

流入・原水ポンプ槽に堆積する油脂



流入・原水ポンプ槽には、多量の油脂分が浮上堆積します。そのまま放置すれば固化し、悪臭もしくはポンプに絡み故障の原因となります。油脂分が固まらないように散気装置を設置の箇所もありますが……。これは、油脂分がボール状となり問題の解決に至っていません。汎用の洗剤で油脂分を溶解する方法もありますが、完全な解決法ではありません。最良の方法は、油脂がボール状になる前にポンプで処理槽に送ることです。油脂分の繰り返しの引き抜きは排水総量規制で排水基準を超える恐れも想定されます。写真は槽内で油脂分を分解し、含水率の低い性状に変化させたものです。

嫌気・可溶化槽に堆積する未消化汚泥



DSP排水処理槽には、嫌気可溶化槽を組み込んだ処理槽もあります。当該処理槽は、通常年に1回か数回の汚泥引抜きが行われています。可溶化を促進し汚泥の堆積を遅らせる、若しくは減容を図る手法もあります。1つは、嫌気可溶化槽への返送水循環量を増やし消化を促進することです。循環量は、1日・2回転以上が望ましい。この場合、嫌気可溶化槽を常時攪拌し強い臭気を発生することもあります。もう1つは、DSP・HVシステムを設置することです。この方法を用いれば臭気問題から解消されます。

処理槽から排出される臭気問題



1つは、処理槽内の強い臭気が屋上に排出し問題となる場合もあります。2つは、処理槽内の臭気は弱い、屋上臭気ファンより臭気が排出されない、その結果、処理槽周辺に臭気が漂い問題となります。この場合は、臭気横引き配管に閉塞があり、屋上に臭気が排出されません。臭気は微臭でも屋上に排出されずに、槽内に溜まれば開口蓋より漏れます。横引き配管閉塞の場合は、閉塞箇所の水を抜き解消することです。脱臭機を設置している箇所もありますが、完全脱臭とは言い難いです。土壤脱臭装置設置箇所は、ほとんど臭気を感じません。効果満点です。処理槽内の臭気を無くすれば、臭気問題は発生致しませんが……。DSP・HVシステムは、強力な生物脱臭システムで問題を解決しています。

水物語 No29 世界自然遺産・秘境白神山地

白神山地は、青森県の南西部から秋田県北西部にかけて広がっている標高1,000m級の山地(山岳地帯)のことをいう。白神山地は、屋久島と並んで1993年(平成5年)12月、日本で初めてのユネスコ世界遺産に登録されました。そこには「人の影響をほとんど受けていない原生的なブナ天然林が世界最大級の規模で分布」しています。それが世界遺産登録の理由です。全体の面積は13万haで、そのうちの1万7千ha(13%)が世界遺産に登録されています。

世界遺産地域は、中央部の核心地域と周辺の緩衝地域に分かれ、これらの地域は世界遺産登録時より開発は行われず、現状のまま保護されることになっています。登録以前からあった登山道以外に道はなく、今後も恒久的に整備されない予定である。青森県側の核心地区に入るには事前に報告する必要があります。秋田県側の核心地区は入山が禁止されています。

ブナの木は従来、椎茸栽培以外にはあまり役立たない木であったために伐採を免れたといえるそうです。ブナはたくさんの小さな実をつけるために、果樹と同様に寿命が短く200年ほどといわれています。自然に放置して倒れたブナは他の樹木や生物の生存に欠かせない栄養分を供給しています。ブナの原生林は樹齢の若いもの、大木、老木、倒壊し朽ち果てたものまであらゆる世代が見られます。

白神山地は、名勝地のように美しい高山植物や雄大な景色を眺められる場所はあまり多くはない。眺望が良い場所や高山植物が咲いている場所に行くためには、それなりの苦勞をしなければなりません。世界遺産の登録は、観光地であるからでなく、このように人為の影響をほとんど受けていない原生的地区が広大に広がっており、世界的に珍しい山岳地帯であったためです。

資料: ウィキペディアより引用



東京都中央区新川1-16-8 KSビル 6F
汚泥ゼロ・臭気ゼロ
ハイブリッドシステム推進中！
株式会社クリーンテックサービス